

柔軟な経営トップの方針のもと 多彩な健康施策を積極的に推進

群馬小型運送株式会社



禁煙サポートプログラムの実施を知らせる社内報(抜粋)
こうした取組みにより喫煙率は2020年10月に45.6%だったものが2022年6月には38.8%へと7ポイント近く下げることができた。

2023年に創立70周年を迎える群馬小型運送株式会社は、総合物流業を中心として、物流不動産賃貸業や太陽光発電事業などの事業分野を展開するGKUグループの中核企業だ。トラックなど一般的な車両による輸送はもちろん、建築資材を配送する特殊輸送、チルド車を駆使した食品輸送、さらには駅の構内への配送や市の文書を配送するといった公共機関の配送業務もサポートするなど、幅広い事業を展開している。

そんな同社では、2017年に協会けんぽ群馬支部の「生き生き健康事業所宣言」に参画したことをきっかけに健康経営に取り組み始め、2020年3月に健康経営優良法人として認可を受け、現在は群馬県内198中小企業法人の内、6社しかない健康経営優良法人2022（ブライト500）の認定を受けるなどの成果を得ている。

そこで今回は、グループ全体の安全衛生活動の中核となって活動している同社管理本部の川手愛子さんに、同社の産業保健活動の特色、取組みについてお話を伺った。

健康意識向上を目指し すぐできる活動を地道に続ける

グループの中核企業である同社は近年、経営理念に、「総力結集×チャレンジ」を掲げ、M&Aなどによってグループ企業を増やすことに力を入れてきた。しかし、この数年で傘下となった企業は規模が小さく、健康や安全教育については意識がないところも多かったという。そこで行ったのがラジオ体操や安全衛生のスローガンを従業員から募集する、という身近な取組みだった。そこには輸送業は長らく「長時間労働」や「過重労働」が当たり前の業界だったが、これを改善し、少しでも従業員の“健康”に対する意識改革や管理者の積極的な取組みを促したい、という思いが込められているという。

「グループの総力を結集し、同じ思いをもってみんなに働いてもらいたい、規模の大小に関わらず、どの会社にも安全についても健康についても、同じように考えてもらいたくてグループ全体で安全衛生のスローガンを募集したり、ラジオ体操をするという小さな活動から始めました」と川手さんは振り返る。

こうした取組みを地道に続けた結果、従業員の健康意識は少しずつ向上し、半期に一度行う産業医が参加しての拡大安全衛生委員会では、「どの程度の症状で救急車を呼ぶべきな

のか」「コロナの予防接種は有効なのか」「除菌スプレーの効果は？」など、健康に関する積極的な質問が飛び交うようになったという。

禁煙という思い切った措置で 採用活動にも好影響

同社では健康診断の受診率は数年前から100%になっているが、問題なのは事後処置で、休暇を取ってもよいから行くようにとアナウンスをしても二次検診に行ってくれないことが悩みだったと川手さんは打ち明ける。「乗務員は日々の動きが違うので、いつ帰ってこれるかわからない、と仕事を理由になかなか行ってくれないのです。そこでコロナ禍で特定保健指導がオンラインで受診できるようになったことを契機に、該当者全員に“義務”として受診してもらうようにしました。それでも受診しない場合は産業医の先生に厳しめに指導していただいて、乗務停止にしたこともあります」と川手さん。治療を開始したという医師からの証明を提示しないと乗務させないという厳しい措置だ。

「運転中に高血圧による脳卒中などで事故を起こしたというニュースが時折ありますが、これは自分や家族だけでなく周りの方にも迷惑を掛けますので、健康な状態で仕事をしてもらうための施策は会社の責務だと思います」と川手さんは強調する。

そんな同社が思いきって取り組んだのが構内全面禁煙、トラック内もすべて禁煙という取り組みだ。しかし、それは反発も大きかったという。

「2021年から本格的に禁煙サポートプログラムを始めました。70年の歴史のなかで40年以上勤続している者もあり、そういった方は一人で運転席のなかで自由にできる職種だからやっているという人も多く、なかなか取り組みは拡がりませんでした。トラックは別の者が運転することもあり、特に若い世代はタバコを吸わない人も多く、喫煙者のあとの乗車は臭くて嫌だ、と拒否されてしまいます。トラックをクリーニングするにはかなり高額なコストがかかりますので、これも現実的ではない。そこで“車内も公共の場である”、“運転席に付いた臭いも受動喫煙の可能性があるので”と社内報で訴え、全面禁煙にしました」と川手さん。

こうした強い反発があった一方で、若い世代からは

「運送業なのにこんな取り組みは珍しい」という歓迎の声が聞かれるようになり、採用活動も順調に成果を出せるようになったという。

24時間の「プチ社食」を設置し 「食」から従業員の健康を支える

「当社のトップは“デメリットになることでなければやってみればいい”という考えで、健康経営への取り組みだけでなく、さまざまな施策を積極的に行うことができました」と、トップへの感謝を語る川手さん。なかでも特徴的なのがプチ社食の導入だ。

「きっかけはドライバーさんがトラック内でとる食事を調査した際、朝は家から持参したおにぎりを食べても、昼はカップラーメン、運転中はパンというパターンが多く、食事のバランスがよいとはいえないことが分かったからです」と川手さん。プチ社食では管理栄養士が監修したバランスのよいお惣菜が、24時間いつでも購入できると好評だ。ただ、購入する人が固定化してしまっているのも、今後は別のアプローチを模索中だという。今予定しているのはプロテインバーの自販機で、健康アプリと連動して健康活動をするとポイントがたまり、ジュースなどと交換ができる仕組みだ。「グループごとにウォーキングの歩数を競うようなこともやろうかと検討しています」という川手さんの目標は、さらにこれを発展させて本当に社食を設置したい、と大きく膨らんでいる。

「まだ構想を温めている段階で、やる場所すら目処がついていないのですが、昨年、食品衛生責任者の資格を私と部下の一人が取得しました。二人で定年後は社食のおばちゃんをやりたい、と社長に伝えたところ“面白いね”といってもらえました」と笑顔で語る川手さん。

従業員の健康づくりに積極的に取り組み続ける同社の健康保険活動はこれからも進化し続けていくことだろう。

会社概要

群馬小型運送株式会社

事業内容：一般貨物運送業（貸切配送・積み合わせ配送・小口配送・運転代行）一般商品保管管理（一般倉庫保管・入出荷管理）

設立：1953年

従業員：104名（2022年4月1日現在）

本社所在地：群馬県高崎市